

## 留学報告書 ～人生初の留学～

クワントレン大学  
国際文化学部（中期）

大学3年生で初めて留学しました。入学前から留学を意識していましたが、なかなか留学選考の点数に届かず、3年になってようやく基準を超えて内定をもらうことができました。講座に参加している人たちが自分より学年が低かったり、同じ留学を目指して勉強しているライバルであったり、さらに自分とは違って高得点で留学内定をもらった人が多かったため、不安を感じていました。そのため、留学直前まで自分の英語力に自信が持てず、内定後も英語の学習を地道に続けました。

留学初日、留学生オリエンテーションに参加しました。現地の人たちは話すスピードが速く、またこれまで英語の学習以外で英語に触れることがなかったため、上手く聞き取ることができませんでした。しかし、周りも同じ留学生で、苦勞を理解してくれているのか、ほとんどの人が親切で、理解できなくても繰り返し言ってくれたり分かりやすい単語を使ってくれたり、とても優しく接してくれました。自信が無かったものの、せっかくカナダまで来たのだし、中期という短い期間だからやらずに後悔したくないという一心で、拙いながらも自分から話しかけるように心がけました。その結果、友人を通じて台湾からの留学生と知り合い、その後意気投合し、一緒に行動するほど仲良くなることが出来ました。

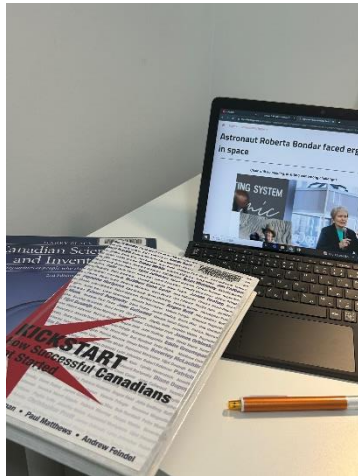


留学して最初の月はとても大変でした。手配してもらった家は Surrey という地域にあったのですが、私のミスで近くのキャンパスの講義が上手く取れず、気付いた時には家から 30 分ほどで行けるキャンパスの講義は既に全て埋まっていました。変更期間中もずっとパソコンの画面を見て待っていたのですが、空きは出ませんでした。ホストファミリーも親戚の方も本当に良い人で、拠点を変更したくない、ここまで来てオンライン授業は勿体ないという強い思いから、家から 1 時間以上かかる Richmond という地域にあるキャンパスに通学することを選びました。Surrey にはインド系の人が多いと感じていましたが、Richmond ではアジア系と、たまにヨーロッパ系の人を見かけることがほとんどでした。Richmond では日本人と 1 度も会うことなく、よく聞く語学留学の体験談とは違い、日本語を使う場がなく英語力を伸ばすためにとても良い環境でした。



最初の頃は生徒同士で話すことはありませんでしたが、学期の後半になるとグループワークで話す機会が増え、気軽に世間話をする事が出来るようになりました。クラスの雰囲気も明るく、楽しく授業を受けることが出来ました。講義の最後の日には、仲良くなったクラスメイトが私の帰国日が近いことを知り、日本人が働いている寿司屋に連れて行ってくれました。この友人達は中国系が多かったですが、みんな英語で話しかけてくれました。私は中国語を専攻しているので中国語を話すと喜んでくれ、とても楽しい時間を過ごしました。

授業は、ELST という英語を学ぶクラスのうち、Listening & Speaking、Academic Purpose、Grammar の 3 つを取りました。今まで日本で受けていた英語の講義とは違って英語を英語で学ぶものであり、先生はネイティブスピーカーで話すスピードが速かったため、最初は学習内容よりも先生が話す内容の聞き取りに苦戦しました。しかし、ホストファミリーの家は英語かフィリピン語のみで、大学でも英語だけが話される環境にいたため、1～2 週間ほどで先生やクラスメイトの話はもちろん、学習内容も聞き取れるようになりました。しかし、話している内容が何となく聞き取れるようになってもリスニングテストの音声はスピードが速いため、上手く聞き取ることができませんでした。あまり良い点数が取れず、周りが出来ていることもあって余計に自信を無くし、何度も泣きそうになりました。そんな時は、YouTube などの動画サイトでリスニング対策を沢山しました。また、落ち込んだ時は好きな曲を聴いたり好きな動画を見たりして、リフレッシュの時間を大切にしました。最後のテストでは、良くはないけれど、自分の最高点を取ることが出来て良かったです。慣れてくると、講義内容は今まで習ってきたことを英語で復習しているようであまり難しくなく、日本語で受けていた時より分かりやすく感じることもありました。グループワークやプレゼンテーションは英語で伝えなければならず、スピーキングに自信がない私はとても苦労しました。なかなか上手く話せない私に、一緒にグループのクラスメイトが「恥ずかしがらないでいい」「僕たちと話すことで練習になるのだからもっと話してみて」など、優しい言葉を沢山かけてくれた時は本当に嬉しかったです。



留学先で出来た友人たちやホストファミリーと色んなところへ出かけました。門の写真はサレーにある Peace Arch というカナダとアメリカの国境にある公園で、このパーク内にいる間はビザや申請なしで国境を超えることが出来るという、ちょっと変わった体験が出来たのが面白かったです。同じパーク内にトーテムポールもありました。また、空港でもネイティブアメリカンの彫刻をいくつか見かけ、バンクーバーを観光していた時にもグッズや彫刻を何度も見かけました。カナダの多民族文化を感じた瞬間でした。時計の写真はダウンタウンの近くにある Gastown Steam Clock という、アンティークの蒸気時計です。かなり有名な場所のようで、多くの観光客が写真を撮っていました。この時計のあるダウンタウンは治安が悪く、観光客や語学学校に通う日本人が沢山歩いていますが安全とはいえない場所です。なるべくひとりで歩かない・夜遅くに行かないという条件を自分で設定して訪れていました。カナダリーフの写真はコキットラムにある Lafarge Lake という大きな湖です。この湖を囲んでイルミネーションでライトアップされていて、とても綺麗でした。バンクーバーでは色んな場所でイルミネーションがあり、だいたいクリスマスシーズンの 12 月頃に始まるからか、Christmas Lights と呼ばれていました。



ハロウィンの時期には沢山の家に骸骨やクモの巣、ジャックオランタンが飾られているのを見ることが出来ます。パイの写真は Graville Island にあるお店で食べました。クラムチャウダーがとても美味しいと噂で、帰国前には絶対に行きたいと思って探しました。また日本ではあまり食べたことのなかったブルーベリーでしたが、カナダのものは一味違うと母から聞いていた通り、甘酸っぱくてとても美味しく、ブルーベリーが少し好きになりました。慣れない長期の海外生活に体調を崩すことがありましたが、ホストファミリーの手厚い看病のおかげで、長引くことなく治すことが出来ました。学習の充実と同時に、受け入れてくれるファミリーとの関係性を大切にしたいと感じた経験でした。



私はこの留学を経て、自分に自信を持つことが出来るようになりました。未だに英語力は拙いですが、それでも頑張って話せば聞いてくれる人が必ずいたのが私の心の支えになりました。また、やりたいこともなく闇雲に語学を勉強していた時よりも、英語を話して伝わることの嬉しさ、会話が続くことの楽しさに気付くことが出来て、これをもっと活かしたいと思えるようになりました。海外では日本に興味を持つ人が非常に多い一方で、情報が偏りすぎて逆に知らないことがあるという印象を受けました。留学先で日本のことを尋ねられ、生まれてからずっと暮らしていても、分からないことが沢山あると気付きました。日本の文化について話す機会が何度もあり、日本を見直すことに繋がりました。今後海外の人と交流ができたなら、もっと日本の文化や歴史を上手く伝えて日本に興味を持ってもらい、日本と海外のちょっとした懸け橋になれたらと思います。